

ゴミに対して、僕たちができるることを考える

SDGs項目1・2「つくる責任 つかう責任」

鎌倉市 大平 航正（9歳 小学4年生）

目次①

- 1、2 目次
- 3 はじめに
- 4、5 近所のゴミを拾ってみる
- 6 ゴミは分別する
- 7 ゴミ拾いを続けること
- 8 久しぶりに、しっかりとゴミを拾ってみた
- 9 集積所をきれいにする
- 10 プラスチックゴミについて考える



鎌倉市のカンとビンの分別
の様子です。

目次②

- 1 1 ゴミのポイ捨てをしない
- 1 2 ポイ捨ての犯人を考える
- 1 3 コンポストに取り組む
- 1 4 子どもたちがゴミについて学ぶこと
- 1 5 神奈川県内の取り組み
- 1 6 日本全国の取り組み
- 1 7 参考にした資料
- 1 8 終わりに

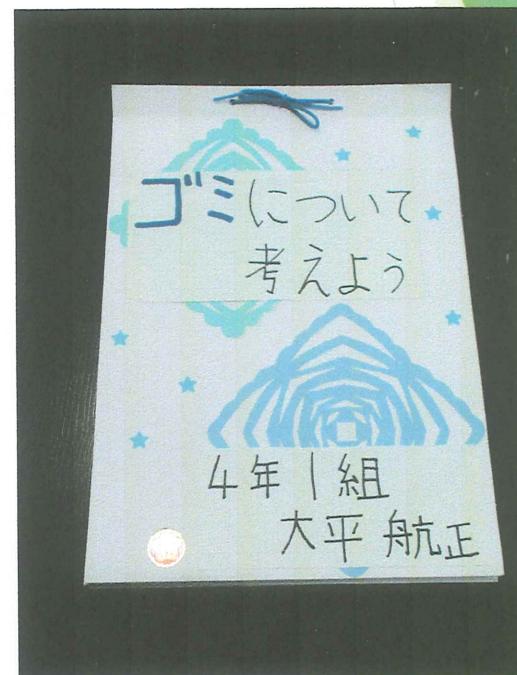


リサイクルセンターで、
リサイクルの大切さを学ぶ
ことができます。

はじめに

- ▶ 僕は、今年の夏休み、4年生の社会科の授業で学んだ「健康なくらしとまちづくり」の「ゴミはどこへ」の学びを深めたいと考えました。そのため、「ゴミについて考えよう」をテーマに自由研究に取り組みました。
- ▶ ゴミの課題は、SDGs項目12「つくる責任 つかう責任」に大きく関わります。そこで、ゴミについて調べた夏休みの自由研究をふまえて、僕たちができるることを考えていきたいと思います。
- ▶ ゴミは、僕たちが生活していると、どうしても出るものです。未来をよくするために、僕たち子どもも学び考えていくことが大切だと思います。

夏休みに取り組んだ自由研究です。



近所のゴミを拾ってみる

- ▶ 7月15日（土）の9時45分から、近所の県道302号線沿いの歩道のゴミを拾ってみました。僕の通学路です。ゴミがいっぱい落ちていることが気になっていました。僕はトングを持って拾う係です。ママにゴミ袋を持ってもらって一緒に歩きました。
- ▶ 僕は最初、15分くらいで終わるかな、と考えていました。しかし、植え込みにからまつたゴミは拾いづらく、予想以上に時間がかかりました。途中で、お散歩中のおばあさんたちが、「お休みの日にえらいね。」と、声をかけてくれました。うれしかったです。
- ▶ よく見ると、地面に埋まっているゴミもありました。なるべく掘り出して拾いました。

▶ 僕が拾ったゴミ

ペットボトル6本、カン3本、ビン4本、たばこの空き箱3箱、たばこのすいがら10個、アイスの袋3つ、アイスの棒4本、おにぎりのつつみ3つ、サラダチキンの袋1つ、なめこの袋1つ、大人用のマスク1まい、お菓子の袋6つ、プラスチックのかけら、アルミホイルのかけら、リフレクターなど

▶ 主なものは以上です。結局、30分かかりました。少し疲れたけれど、僕たちの通学路がきれいになることはうれしかったです。全部で、大きな買い物袋1袋分になりました。

だいぶゴミが拾えました。



ゴミは分別する

- ▶ 7月17日（祝）の朝、拾ってきた近所のゴミを分別しました。クリーンステーション（ゴミの集積場）に出すためには、資源物を分別して、それぞれの収集日に出さなければいけません。そのため、1つ1つ分けました。
- ①カン・ビン・・・長い間放置されていたため、ダンゴムシやアリが住み着いていました。中に入っていた虫や土は外に出し、クリーンステーションに置かれている箱に分けて捨てました。
- ②ペットボトル・・・ペットボトルは、ふたとラベルを取りなければなりません。1つ1つ取りました。中にべたべた残っていましたが、古いものは、ラベルがポロポロくずれていきました。
- ③清掃ごみ・・・道路やクリーンステーションを清掃した時に出るゴミは、「清掃ごみ」と袋に大きく書いて捨てることができるそうです。
- ▶ 資源物を分別することは大変でしたが、クリーンステーションのルールで回収してもらえるようにがんばりました。

ゴミ拾いを続けること

- ▶ 7月18日（火）に、僕は通学路を見てみました。すると、アイスの袋、たばこの空き箱とすいがらが、もう落ちていました。せっかくきれいにしたのに、あっという間に汚されてしまうことに、僕は、がっかりしました。
- ▶ 7月28日（金）の16時30分から、再び近所のゴミを拾ってみました。すると、だいぶゴミが減っていました。たばこのすいがらが14個もあったのですが、後はたばこの空き箱や使い終わったウェットティッシュ、スズランテープくらいでした。15分ぐらいで終わらせることができました。燃やすごみの日に出せる清掃ゴミ1袋でまとまりました。
- ▶ 7月31日（月）に、通学路を見てみました。早速、大人用のマスクが落ちていました。悲しかったです。

久しぶりに、 しっかりとゴミを拾ってみた

- ▶ 夏休みに、僕は何度も通学路のゴミ拾いをしました。一旦きれいになると、その場所はゴミが捨てられにくくなることが分かりました。頑張ってみてよかったです。
- ▶ 11月12日（日）、僕は、久しぶりにトングを持ってゴミ拾いに歩きました。たばこのすいがらを何本か拾いました。よく見ると、植え込みにおにぎりの包みなどが絡まっていました。ペシャンコにつぶれた空き缶が地面に埋まっていました。15分ぐらいで拾い終わりました。

ゴミがだいぶ減りました。



集積所をきれいにする

- ▶ クリーンステーション（集積所）は、きれいにしておくと、分別のルールを守ったり、ポイ捨てを防ぐ効果があるそうです。
- ▶ 7月15日（土）に、僕はクリーンステーションの掃除をしようと考えていました。僕の住む地区では、毎週火、金曜日が燃やすごみの日です。しかし、ルール違反の燃やすごみが残っていました。そのため、組み立て式ネットボックスが広げられたままでした。そうなるととても掃除ができません。ルール違反はいやだなと思いました。
- ▶ 8月3日（木）、風が強い日でした。僕はお昼ごろ、青少年会館で行われた子ども将棋教室から自転車で帰ってきました。すると、プラスチックゴミの袋が道路に転がっていました。大きな袋に少しのゴミが入っていました。出す時間におくれたルール違反のゴミだと思います。プラスチックゴミがちらかいたら大変です。拾って、車庫に飛ばないように置いておきました。

プラスチックゴミについて考える

- ▶ 僕は時々、スーパーに買い物に行きます。お米はじょうぶなビニールの袋に入っています。肉や魚はプラスチックのトレーに乗りラップがかかっています。卵は割れないようにプラスチックのケースに入っています。野菜はビニールの袋にはいっていて、果物はいたまないようにプラスチックの素材でほごされています。ヨーグルトやおかしにも、プラスチックがたくさん使われています。パン屋さんでは、パン一つひとつをビニール袋に入ってくれます。僕たちは、たくさんのプラスチックを使いながら生活しています。
- ▶ 経済協力開発機構（O E C D）によると、2 0 1 9 年のプラスチックゴミの排出量は、3 億 5 3 0 0 万トンで、2 0 年前の約 2 倍になりました。
- ▶ 環境省などによると、世界の海に流れ込むプラスチックは、年間 4 8 0 万～ 1 2 7 0 万トンと推計されるそうです。
- ▶ プラスチックゴミは、海に入ったら二度と回収できません。そのため、予防する行動を今起こさないと手遅れになります。

ゴミのポイ捨てをしない

- ▶ 僕は、ゴミのポイ捨てをしません。でも、お出かけ先の食べ歩きは好きです。最近では、名古屋城の忍者アイスや、小町通りの大仏様焼き、おいしかったです。僕は、なるべくお店の近くで食べます。そして、食べ終わったら、「ごちそうさまでした。おいしかったです。」と、お店の人ゴミを渡します。
- ▶ 今年は友達と大船祭りを楽しみました。子ども大学かまくらの帰りに、友達とおやつを買って食べたこともあります。僕の友達も、みんな、ポイ捨てをしません。ゴミが出たら、ゴミ箱を探して捨てます。僕は、多くの子どもは、ごみのポイ捨てをしないのではないか、と思います。
- ▶ 僕が拾うゴミを思い出すと、大人が捨てたものが多いようです。

ポイ捨ての犯人を考える

- ▶ 僕は、近所のポイ捨ての犯人は、一部のマナーが悪い大人だと思います。理由は2つあります。1つ目は、最初に拾ったたくさんのゴミを観察すると、お酒のカンや大人向けの栄養剤の瓶など、子どもが出したごみとは考えられないからです。2つ目は、ゴミ拾いを始めてから増えたポイ捨てゴミが、たばこの空き箱やすいがら、大人用のマスクだからです。
- ▶ ゴミを何度も拾っても、すぐにポイ捨てをされることは悲しいです。そして、その犯人に向かって、何も言えないことが悔しいです。
- ▶ 僕は、ゴミのポイ捨てをしないような大人になりたいです。

コンポストに取り組む

- ▶ 僕は、ベランダでコンポストに取り組んでいます。理由は、生ごみを減らすためです。僕たち子どもでもできます。自分の家で出る生ごみは、汚くありません。水分が多い生ごみを、たい肥に変えることができます。
- ▶ 野菜や果物の皮（ジャガイモ🥔、ニンジン🥕、ダイコン、ミカン🍊、リンゴ🍏など）がたくさん出た時に取り組むと、無理なくできます。
- ▶ 鎌倉市では、燃やすごみの約5割を生ごみがしめます。そして、生ごみの約8割が水分とのことです。
- ▶ 水分を燃やすために、多額の焼却費をかけて、大量の二酸化炭素を排出することは、やめていきたいと思います。

僕の家のコンポスト
の様子です。



子どもたちがゴミについて学ぶこと

- ▶ 11月12日（日）に、鎌倉市ではリサイクルセンターで「笛田リサイクルマーケット」が開催されました。「きてみて、しって」をキーワードに、楽しみながらリサイクル参加につなげるイベントでした。僕は、リサイクルゲームに参加しました。ゴミのリサイクルに関するクイズでした。僕は、たくさん解くことができました。キッチンカーでパニーニを買って食べたり、小学生ピッグバンドの演奏を楽しんだりしました。僕は、ゴミを減らすためには、子どもたちの協力も大事だと思います。

笛田リサイクルセンターでは、リサイクルについて学ぶことができます。



神奈川県内の取り組み

- ▶ 僕が住む鎌倉市は、令和3年度の資源化率（リサイクル率）が52.6%です。全国平均の20.0%を大きく上回り、人口10～50万人の市の中で、4年連続日本一①です。（環境省が公表）
- ▶ リサイクルやゴミの処理には、多くの経費がかかります。
- ▶ 藤沢市には、北部環境事業所があり、環境にやさしい様々な取り組みを進めています。僕は、8月5日（土）にEco2（エコエコ）夏祭りに家族で行ってみました。子どもたちがゴミについて学べる楽しいイベントでした。
- ▶ 茅ヶ崎市では、令和4年度からゴミの収集を有料化したところ、年間の排出量が15%減ったそうです。

日本全国の取り組み

- ▶ 福岡県柳川市や京都府亀岡市では、収集袋の名前を工夫しています。「燃やすごみ」を「燃やすしかないごみ」、「埋立てごみ」を「埋め立てるしかないごみ」と切り替えて、ゴミのリサイクルを進めて減量を目指しています。
- ▶ 福岡県みやま市（人口約3万5千人）では、生ゴミを分別収集し、資源（液体肥料とメタンガス）に変えています。SDGsな「循環のまちづくり」を進めています。
- ▶ 収集袋に名前を書かせている自治体もあるそうです。
- ▶ ゴミ拾いをスポーツとして楽しむ「スポGOMI」という取り組みもあります。合言葉は「ゴミ拾いはスポーツだ！」で、チーム対抗の競技になるそうです。

参考にした資料

- 「世界がぐっと近くなる SDGs とボクらをつなぐ本」（Gakken）
- 「こどもSDGs なぜSDGsが必要なのか分かる本」（カンゼン）
- 「クイズでわかる地球のためにできること！SDGsのサバイバル」（朝日新聞出版）
- 「すごいゴミのはなし ゴミ清掃員、10年間やってみた。」（滝沢修一）（Gakken）
- 「世の中へのとびら ゴミにすむ魚たち」（大塚幸彦）（講談社）
- 「小学校社会科学習3・4年生用かまくら」（鎌倉市教育委員会）
- 「鎌倉市一般廃棄物処理基本計画（第3次）」（鎌倉市ごみ減量対策課）

終わりに

- ▶ 僕は学校の図書室で、「ゴミにすむ魚たち」という本を見つけました。表紙は、空き缶に住む黄色くて緑色の目を持つミジンベニハゼの写真でした。その本には、海の中でゴミと暮らす、たくさんの生き物の写真が載っていました。僕は、ポイ捨てをしないこと、ゴミを出すルールを守ることが大切だと思います。
- ▶ 僕たちは、たくさんのゴミを出しながら生活しています。だからこそ、自分たちでできることをやっていきたいと思います。僕の家のコンポストは、順調にたい肥化が進んでいます。家から出る生ごみの量がだいぶ減りました。
- ▶ 国連のグテーレス事務総長は、今年の地球規模の暑さを「地球ふっと化の時代が到来した」と表現しました。とてもこわいことだと思います。未来を担うのは、僕たち子どもです。この先も地球を守り続けるためには、僕たちがゴミについて学び、考えていくことが大事だと思います。